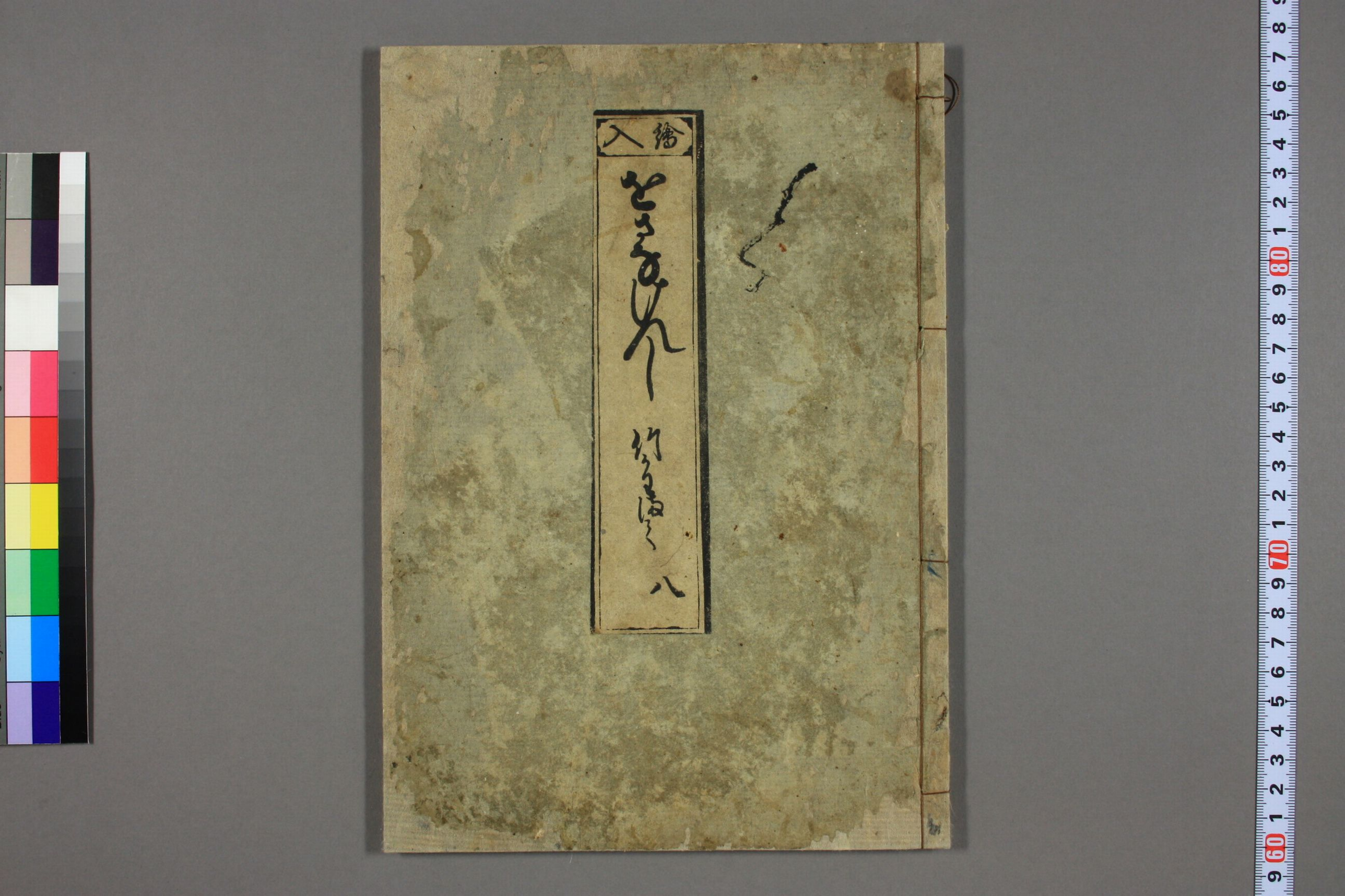

絵入
竹雪婦人
八

すま　源氏物語　夕霧巻

慶應義塾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上人の手をとりて涙にむせびたまへり
御所　ものゝけのなやみ
侍　ものゝけのなやみ
侍　ものゝけのなやみ

夕雲

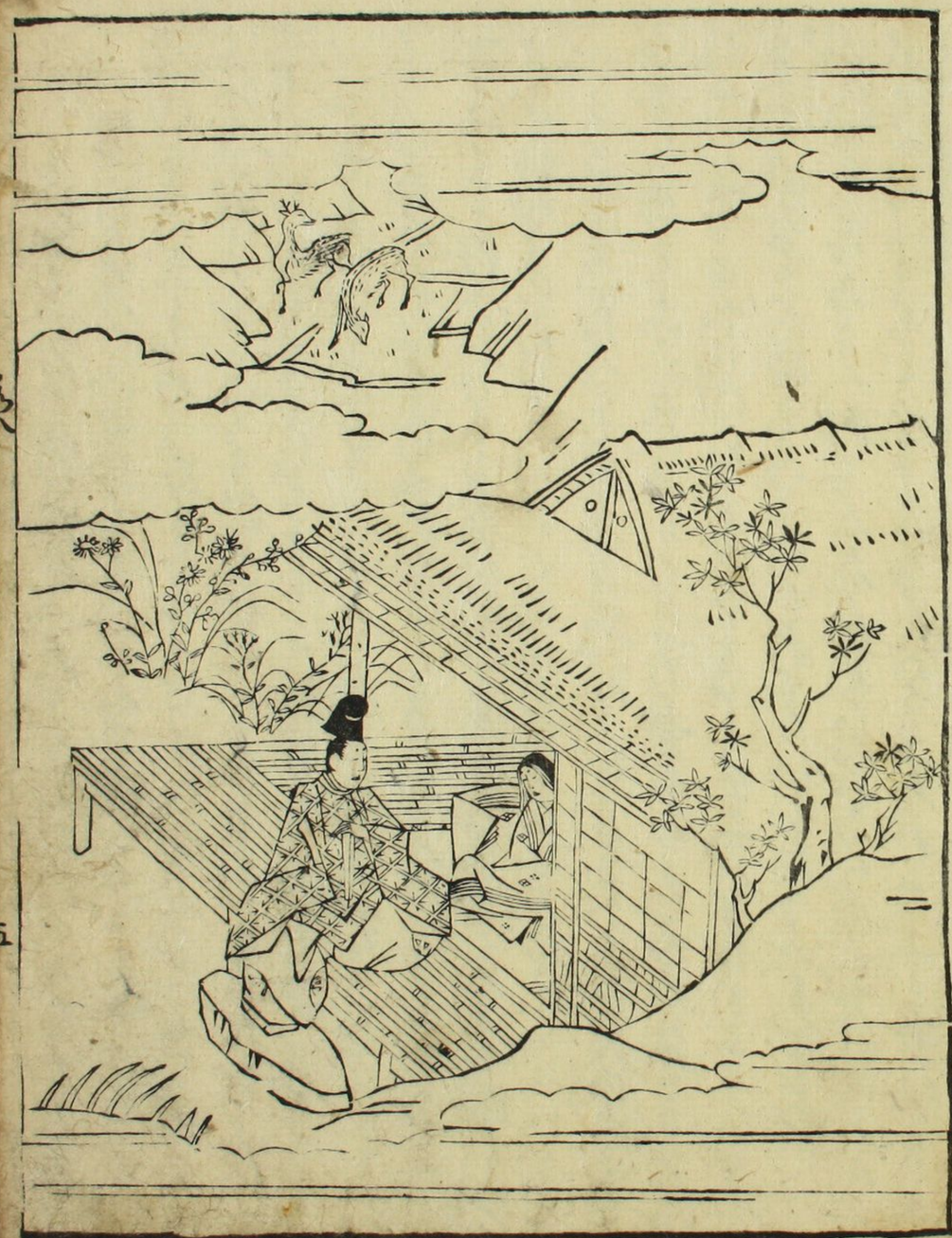
夕雲は大納言一条の殿の女房にあり
おもてをくゝみ給へるよりはこの小野の
里のもの人にてもあらぬ人の大納言殿
の御車にてこの
年ごろ御ものゝけ
にてなやみ給へる
ものゝけの
夕雲
山里にあるものゝけ
女二
山ごもりのものゝけ
又ものゝけ
つゐにあらはれ
ものゝけ
ものゝけ
上人

久秀

大くらの殿の御ぜんにて
ぜんの
ぜんの
ぜんの

秋もうやすくれぬれば又ふるとしをまつせんみてこひまつとて
やすらふるまつのみよりはまさにうりおちしぬれぬれにぬれた
さきのつゆかなつけのひとしほ夕雨

秋の雨ぞ長月ばかりにうねの花ひとしほ
小雨ぞ八月ばかりにはのもとにはぎ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
うつろふ花ぞ八月ばかりにはのもとにはぎ
さきそめしはぎのつゆ大和歌
のひて梅ぞ花ひとしほ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ
ふるとてけさ又ふるとうつろふ



衣ともいろにそめてうゑあんかうゑさうゑのうゑ
九月十九日のあさりに小野へまうでゝ
里とをとこ小野ゝ志の尓ゝ
のゝ萩衣高ゝけゝ秋乃山人ハ鹿の鳴ゝよ秋とゝゝ
ゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

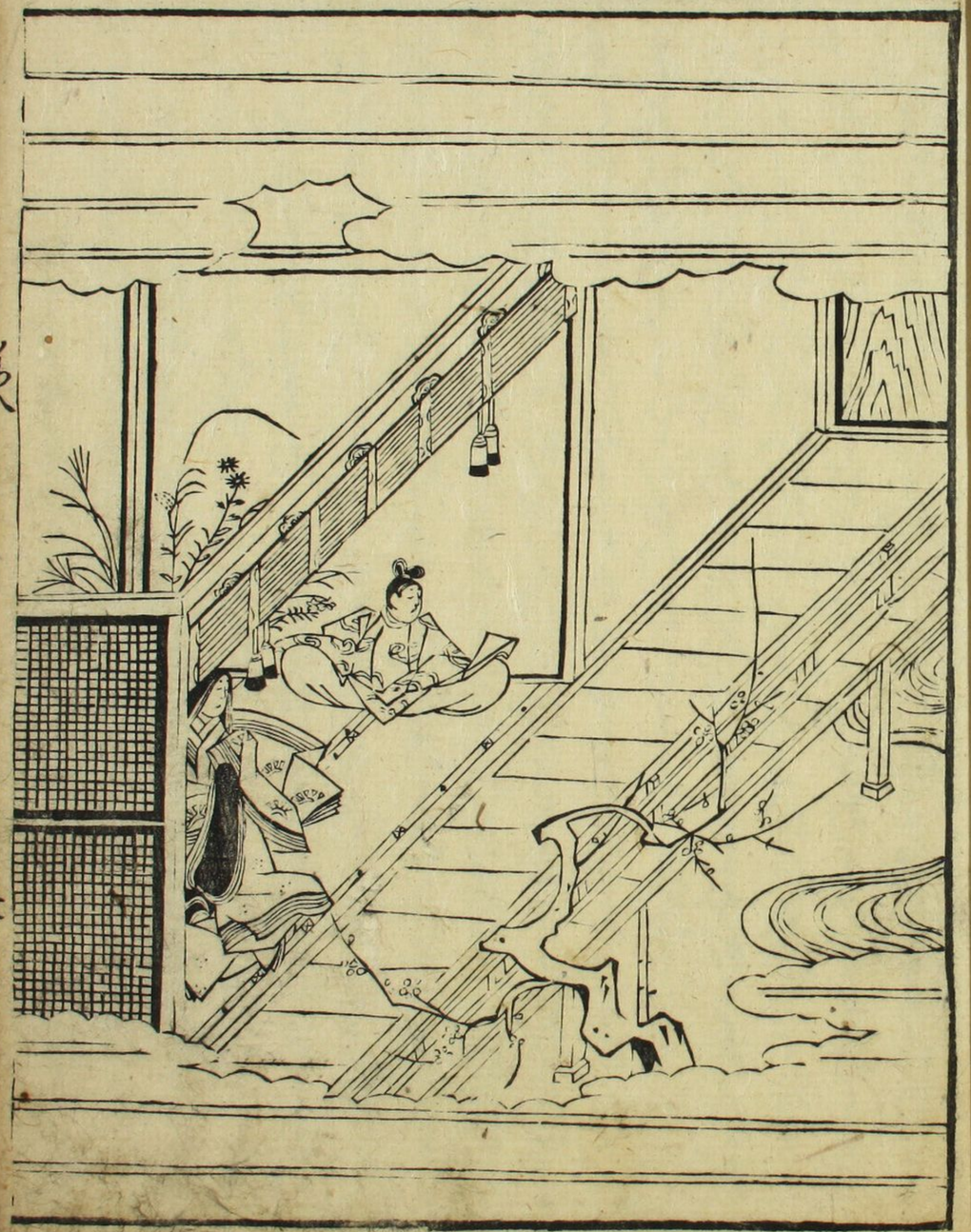
女二

女二

女二

女二

女二



みのり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はそれしやそれ今はのふそめたるうらのとも
わすれはてにたるうらまひしひとはのうらのよ
ふくうらのうらのゆくへよ
をくるうらのうらのかからはせるうらのとそよのぬよ
のうらのうらのうらのはれしたるうらのうらのうらのとにんと
おもうらの夜夜たるうらのくけるうらのやすみうらのたるうらのひもすうらのやさせあ
源
朋家乃うらのすなるうらのやうらのうらのうせもせるうらのうきう
まうらのれ日中れのうら
はうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうきう
源
大うらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちうぎい　ちうすけ

ふぢはら大納言ゆきいへ二人あり中ぬきいでゝ
ゆきかたの三ぢやうの姫君二人まゐり給ふ
うせ給ひしく後はいかゞうへ大納言ゆきひらの
ゆきひら口三人と一ぢやうのきさきとゝ
きさきたちのえさとゆきかたの
ゆきいへ中ぬきせんとせ給ふ
ありて風のゆきとの梅よりまつ雪ぞうちとやうきさ
白雪　花乃ゆきにそ雪あへる身ありせば風の役をすく宣旨やを
中ぬきうりと文乃ぬきのうちにあれそこのひやう
よ文ぬきよまれしゆきのゆきぬのとやうちん
天鵞絨　ゆきのゆきつぎの神宮ぬきのうちん
白文　花のことゆきのゆきあゆきとゆきづとやうのうぐいすん
大納言ゆきいへのうちの三位ゆきなり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十五夜

つきみてをもふことはあまたあれど
かはるこころはたれにあらじと

いでやわれ秋のなかばのこよひだに
ちまみはかなしかりけるものを

春をこそ人はをしむと思へども
秋のなかばのこよひ
秋のなかばのこよひ

月をのみ
こよひ
こよひ

九月の後の月

秋のなかばのこよひ
こよひ
こよひ

酒井忠采